

(第2号様式)

神奈川県教育委員会教育長 殿

平成28年4月11日

県立保土ヶ谷養護学校長

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1「自立と社会参加」をめざす教育課程の改善と特別支援教育の専門性の向上	<p>①小・中・高等部の連続性と教育目標を確認し、学部研究を反映した教育課程の改善に取り組む</p> <p>②校内研究に外部助言者を活用し、学部研究の充実と今後の中期的研究計画立案を図る。</p> <p>③教員の授業研究を推進し、公開授業や授業見学会・研究協議会を実施する。特に特別支援教育の経験の浅い教員の研究授業および中堅ベテラン教員の公開授業を実施する。</p> <p>④授業づくりなどの教員の計画・準備に対し、学校としてバックアップする体制づくりを進める。</p>	<p>①教育課程の改善ができたか。</p> <p>②中期的研究計画が立案できたか。</p> <p>③公開授業による授業研究が推進できたか。</p> <p>④教員の授業づくり支援体制が進んだか。</p>	<p>①小中高の連続性のある教育課程を検討した。各学部ワークショップを実施、「自立と社会参加に向けた学びの連続性のイメージ図」を作成。「学びの連続性」の視点から日課表も見直した。</p> <p>②学部研究に神奈川県総合教育センター若手教員支援事業を活用し、年3回指導主事の助言・指導をあおいだ。次年度の全校研究テーマを検討、「保土ヶ谷の学びの連続性～自立と社会参加に向けて育てたい力～」とした。</p> <p>③校内授業見学会を9月に実施。グループごとにファシリテーターを配置し、テーマに沿った協議会を設定した。若手教員の研究授業は38名、のべ54回実施した。</p> <p>④生活科授業のビデオ記録による協議会(小)、教科会(平沼分)学部研究による協議会、ケース会、サマーセミナー(全学部)を通じて意見交換を行い、授業改善、日常生活の指導の充実に繋がった。</p>	<p>①「学びの連続性イメージ図」を個別教育計画や学部研究と関連付け、卒業後の生活を見据えた具体的目標を保護者と共有することが必要。日課表は次年度から中・高等部で一部変更する</p> <p>②外部の助言を受けながら学部研究に取り組み実践的な力を養う。3年計画で新たな学部研究に着手する。1年目は各学部「こころとからだ」について協議し、小中高等部の連続性について整理共有する。</p> <p>③今後も研究授業を授業改善の機会とし若手だけでなく、中堅教員の授業データを有効に活用するシステム作りを検討する。校内授業見学会は実施できたが、公開授業には至っていない。公開授業の効果的な実施について検討が必要である。</p> <p>④教材・教具の活用しやすいデータベースフォルダーの作成や有効的活用に向けて整備する。時代に即した新規講座、研修会を開拓し、分かる授業作りを推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none">・教員の専門性や指導力の向上に向けて意欲的に取り組んで欲しい。・学びの連続性への取り組みに共感今後に期待する。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none">・「学びの連続性」への取り組みは評価できる。保土ヶ谷の強みとなるよう取り組んで欲しい。	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none">・児童生徒の実態を踏まえ、学部ごとに自立と社会参加に向けて育てたい力を話し合い、「学びの連続性のイメージ」をまとめることができた。保護者や学校関係者からの賛同も得ることができた。グラウンドや特別教室を調整し、日課表を検討、教育課程の改善が進んだ。・学部研究や校内授業見学会、研究授業を通して授業改善に取り組み、協議会での意見交換を深め、授業力や専門性の向上に繋がった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none">・自立と社会参加に向けた具体的な目標を保護者と十分共有する必要がある。・校内授業見学会をさらに深めるために公開授業に移行できるような計画を検討する。

<p>2 個別教育計画に基づく個々の教育ニーズに対応した指導の充実</p>	<p>①児童生徒の適切な実態把握と課題設定により、基礎・基本の力の定着を図る指導を行う</p> <p>②担任と自立活動教諭との協働による個別教育計画の作成と評価を実施し、個別の支援計画による個々の教育的ニーズと社会参加に向けた指導内容を教育計画に反映させる。</p> <p>③児童生徒の学習や生活に適した情報教育（情報機器の活用）を積極的に進める</p> <p>④チームによる「分かる授業」作りのために、指導打ち合わせ日を有効に活用し、児童生徒個々の指導目標を共有・評価し、指導の充実を図る。</p> <p>⑤視覚的に理解しやすい教育環境を整備し、児童生徒の主体的な活動を促進する。</p>	<p>①基礎・基本の指導に取り組めたか。</p> <p>②担任と自立活動教諭（専門職）の協議による指導の充実が図られたか。</p> <p>③情報機器活用の研修と実践が進んだか。</p> <p>④打ち合わせ日は効果的に活用できたか。</p> <p>⑤教育環境の整備は進んだか。</p>	<p>①児童生徒の実態把握、保護者との共通理解により個別教育計画を作成し、指導のねらい、具体的な手立てを定めた。自立と社会参加に向けた重点目標を中心とする書式を検討、本校3学部統一書式を新たに作成し、保護者説明会を実施した。</p> <p>②個別教育計画の作成について小学部と各分教室の1年で自立活動教諭が協働し、見立てを共有した。他校専門職(理学、言語)の巡回相談を6回実施した。</p> <p>③職員向け校務研修会を実施し、職員の習熟を図ったが、教育指導に向けた研修までには至らなかった。本校タブレット型端末14台、分教室タブレットパソコン各15台が配備され、校内無線ネットワークも充実した。ICT機器の利用は徐々に増加している。</p> <p>④指導打ち合わせ日を年間37～40回設定。学部や学年単位でケース会や個別教育計画協議、授業単位の検討会等に活用し、指導の充実に向けて有効活用できた。</p> <p>⑤個別指導ルーム、パーテーション等で刺激を減らし情緒の安定を図った。教材・教具は全学部を見通して調整購入した。安全点検を実施し、修理が必要な箇所は迅速に対応した</p>	<p>①次年度から個別教育計画新書式を導入し、3年間を配列できるようにファイル化する。学びの連続性を視野に入れた学習内容の検討を進め、新書式の円滑な実施に向けた学習会等全校的支援体制を作る。</p> <p>②より良い支援に向けた協働ができるよう実態把握の時間設定や協議方法を学部に合わせて検討設定する。</p> <p>③ICT機器の有効性や活用方法について、ニーズに合わせた教員研修や情報教育の充実を目指した研究授業や協議会など組織的に計画する。</p> <p>④指導打ち合わせ日の年間計画を各学年ごとに作成し、新個別教育計画に活かせる有効的な協議を行う。</p> <p>⑤教材・教具の購入計画を立て、全校的な教材見える化に向けた整備を進める。修理や整備が必要な箇所を洗い出し、優先順位をつけ計画的整備を実施する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育の取り組みはまだ定着していない。効果的に取り組んで欲しい。 <p>・前年度に比べ教育環境の整備は進んではいるが、老朽化している箇所については、引き続き修理改善して欲しい。</p> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別教育計画の統一化による小中高等部に繋がる申し送りを希望する。教員が変わっても児童生徒の状況がおおむね引き継がれると良い。 ・タブレットの使用を広がっているが、学校以外での利用に繋がることが大切である。パソコン等に頼りすぎず、一人ひとりの表現力の定着の視点も考慮して欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び連続性の視点から、本校小中高等部の個別教育計画統一書式を作成し、自立と社会参加に向けた指導の充実を図る計画が進んだ。 ・年度末にタブレット端末（本校）・タブレットパソコン（分教室）が配備され、校内無線ネットワーク環境も整備された。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度から新個別教育計画を導入し、学習内容や分かりやすい書式の記入方法の検討など指導打ち合わせ日を有効に利用しながら、円滑な実施に向けた支援体制を作る。 ・ICT機器活用についての教員研修会や、研究授業など組織的に計画し、情報教育の充実を図る。
<p>3 キャリア教育の推進および進路指導の充実</p>	<p>①児童生徒の発達段階に応じた自己理解、他者理解の指導に努め、自己を肯定的に理解し主体的に判断できるように支援を行う。</p> <p>②児童生徒の年齢にふさわしい社会性と、能力に応じた役割を経験できる指導を進める。</p> <p>③地域に根差した特別支援学校として、地域資源を活用し、幅広い地域貢献活動を推進する。</p> <p>④生徒の「働きたいという気持ち」を育て、一人ひとりの力が発揮され評価される、きめ細かい進路指導を推進する。</p>	<p>①児童生徒が仲間と楽しく協力して活動でき主体的な活動ができたか。</p> <p>②社会性を高める体験活動ができたか。</p> <p>③地域と協力した活動が展開できたか。</p> <p>④一人ひとりの力が生かせる進路指導ができたか。</p>	<p>①作業班や現場実習等で生徒の得意分野の育成に重点を置いた学習を展開した。マナーやルール、日常生活の指導など自己理解・他者理解の視点に立って生徒にわかりやすい方法で指導にあたった。</p> <p>②近隣校外学習、校外学習、宿泊学習等を実施し社会体験を深めた。</p> <p>③地域自治会や近隣の企業・団体の理解と協力により、現場実習の働く場所や校内実習の受注作業など新たな開拓ができ実習を通じて地域との関係が広がった。</p> <p>④各学部保護者対象の進路懇談会や施設見学会等で外部講師を招聘するなど進路に対する情報提供を行った。校内・現場実習を計画的に実施し役割意識や働く意欲の向上に向けた職業教育に継続的に取り組んだ。</p>	<p>①対人関係の構築のため、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを高める学習を継続する。</p> <p>②体験学習について発達段階に合わせた系統表を作成し、行事のねらいを明確にした継続的指導を行う。</p> <p>③引き続き地域と連携し、実習を通して社会参加の意欲を育む取り組みを行う。</p> <p>④各学部の児童生徒の実態を踏まえ、保護者に向けた進路先の情報提供の充実と懇談会等への参加案内の工夫が必要である。児童生徒にあったアセスメントの検討も必要。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのニーズに応じた進路指導の充実を努めて欲しい。地域の進路情報など時代に即した、具体的な情報が欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内や現場実習は地域資源を利用して積極的に進めて欲しい。自治会等にも声をかけ、協力していきたい。 ・受注作業を多く取り入れたことはとても良い。地域の繋がりを広め、今後も継続的に進めて欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業や団体に働きかけ現場実習の働く場や受注作業種が増加した。職業教育を通じて、地域との関わりを深め、広げることができた。 ・児童生徒の発達段階に合わせた公共施設や公共交通機関の利用を計画的に実施し、社会性を高める経験が拡大した。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域との連携を高め、受注作業を開拓する。 ・ニーズに合わせた進路懇談会や施設見学会を計画する。校内実習に新たな客観的評価表を導入し、生徒一人ひとりの適性を考えた進路指導を充実させる。

<p>4 共生社会の形成に向けた地域センター機能の充実</p>	<p>①地域の小・中学校等が支援教育を充実するのに必要な支援を積極的に行うとともに関係機関との連携を深める。</p> <p>②児童・生徒および教員・保護者間の学校間交流をさらに深める。また、分教室においては、高校との交流や共同学習の充実を図る。</p> <p>③学校から地域等への情報発信を進めるとともに、地域の方がボランティアとして学校運営に積極的に参加する取り組みを進める</p>	<p>①これまで以上に地域の学校への支援が充実したか。</p> <p>②学校間等の交流の内容が充実したか。</p> <p>③HPの改善や活用は進んだか</p>	<p>①近隣の保育園、小中高等学校で13校のべ57ケースの校外巡回相談、地域の研修会講師や障害者理解のための小学校への出前授業等を実施した。高等学校からの相談が増加した。</p> <p>②各学部、分教室で交流を実施した。分教室で高校との共同学習の機会が進んだ。(高校ダンス部とのコラボレーション、高校教員による理科実験授業等)</p> <p>③学校ホームページの運用規定を新規作成し、1月にホームページをリニューアルした。通学支援、食堂清掃、高等部縫飾班ボランティア、マラソン大会のボランティアなどのべ26名の協力がありボランティアの活用が進んだ。</p>	<p>①引き続き、センター的機能の周知を図る。難しいケースの対応では、関係各所の連携を深めていく。インクルーシブ教育の研修会を校内で実施するなど、教員のインクルーシブ教育の理解を深める。</p> <p>②交流学习の効果的な学習内容の検討を続ける。分教室で高校との合同学習の機会をふやすよう高校と協議していく。</p> <p>③学校ホームページや学校便りは今年度の取り組みをベースによりわかりやすく充実した内容になるように検討する。ボランティア募集の情報発信方法の検討を行う。</p>	<p>(保護者) ・学校の様子を広く地域に発信するためにホームページの充実を望む。</p> <p>(学校評議員) ・交流を盛んに実施している。地域性を重視しながら今後も継続していくことを願う。</p>	<p>(学校評価) ・出前授業や巡回相談、電話相談が増加し、地域のセンター機能を発揮することができた。</p> <p>・学校ホームページ運用規定を作成、個人情報の扱いに留意しながらホームページをリニューアルし、地域への情報発信が進んだ。</p> <p>(改善方策等) ・地域への巡回相談を強化し、センター的機能のさらなる充実を図る。</p> <p>・保護者への情報伝達手段として、学校ホームページを活用した方法を検討する。</p>
<p>5 児童生徒がいのちを大切に、安全と健康に配慮した指導の充実と不祥事防止の徹底</p>	<p>①発達段階に応じた安全教育、防災教育等、児童生徒が危険に対して危険を回避する力を育てる教育を進める。</p> <p>②大規模災害等に対して、地域との連携を含めた実効性のある防災体制を整備し、安全で安心して学校生活を送れるよう施設整備を進める。</p> <p>③医療的な配慮を必要とする児童生徒への支援体制の整備に継続して取り組む。</p> <p>④発達段階に応じた食習慣形成に向けた教育を進める。</p> <p>⑤児童生徒の人権を尊重し、職員による不祥事の根絶に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>①職員全体が積極的に取り組んだか。</p> <p>②防災体制の整備が進められたか。</p> <p>③医療的な配慮を整備し、安心できる支援体制ができたか。</p> <p>④食育の取り組みが全体でできたか。</p> <p>⑤人権を尊重した指導ができたか。また、職員による不祥事はなかったか。</p>	<p>①清潔や安全の学習、登下校途中や休日の過ごし方のルール学習、交通安全教室の実施、近隣商店街に自力通学の生徒の安全確保や情報提供の依頼、教員の輪番制による通学指導等を行った。校内駐車ルールを作成し、運用規定を保護者に周知した。</p> <p>②避難訓練、シェイクアウト訓練、不審者対応訓練、職員のDIG研修を実施した。備蓄食料については係在庫点検を行い、PTAの協力により全校2日分を確保できた。</p> <p>③食物アレルギー対応の年度サイクルを検討し、次年度実施に向けた統一書式を作成した。</p> <p>④栄養士と担任の連携による食育授業(小6、中3、高3)、ランチタイム通信の発行など食事に対する意識を高めた。小学部低学年の発達段階に合わせた配慮食を提供した</p> <p>⑤教職員に対して、人権研修会、人権チェックリスト(全教員)や不祥事ゼロプログラム研修(学部)で人権意識の徹底を図った。会計処理の点検の適正化に向けたチェックシートの改善、教材費等の徴収額の見直し、給食費の見直しを実施した。</p>	<p>①今後も関係機関と連携した交通安全教室や指導体制の充実を図る。校内駐車ルールのルールに沿った校内行事を計画する。</p> <p>②次年度より避難訓練とシェイクアウト訓練を合わせて計画し、自分の身を守る意識を高める。実際の災害を想定した防災組織対応訓練など新たな内容の防災研修を計画する。</p> <p>③新たな食物アレルギーの対応基準や方法など懇談会や面談を通じて保護者に正しく周知する機会を作る。</p> <p>④配慮食数に限界があるため、保健係や栄養士を中心に配慮食の対応基準、統一書式を新たに作成する。</p> <p>⑤日常的に教員同士の声をかけあい、指導の方法について共通理解を図る。会計では、チェックシート等を利用し、係内で適切な会計処理を徹底する。会計処理上の課題は全職員に分かりやすく周知する。</p>	<p>(保護者) ・児童生徒の医療的な対応、防災体制の整備、会計処理などの取り組みを進めている。</p> <p>(学校評議員) ・防災拠点の役割として、福祉拠点となることを望む。地域の中に多くの福祉拠点ができると安心する。防災訓練についてもより実際的なものを進めて欲しい。</p> <p>・個人情報の管理は注意して欲しい。人権チェックリストは社会人として当然である項目が多いと思われるが、それを丁寧に点検することで不祥事を未然に防いで欲しい。</p>	<p>(学校評価) ・アレルギー対応について検討し、対応基準や書式を作成、アレルギー校内体制を確立した。</p> <p>・教員のDIG研修、備蓄食料在庫点検や児童生徒のシェイクアウト訓練などを実施し、防災体制の整備が強化された。</p> <p>・人権チェックリストや不祥事ゼロプログラム研修などを通して、職員の不祥事防止の意識に高まりが見られた。</p> <p>・教材費や給食費の見直しを行った。</p> <p>(改善方策等) ・実際の災害を想定して、新たな実際の・実践的訓練の計画を行う。</p> <p>・アレルギー対応基準を、保護者に周知する機会を学部ごとに設定する。</p> <p>・配慮食について、健康係中心に対応基準、書式等新たな体制作りを行う。</p> <p>・学級費や行事費等計画的な私費会計の執行に努める。</p>